

日本原子力学会 標準委員会 基盤応用・廃炉技術専門部会
第86回廃止措置分科会（R3SC） 議事録

1. 日時 2023年9月12日（火） 10:00-12:05
2. 場所：Web会議（Webex）
3. 出席者：岡本主査、目黒副主査、杉山幹事、青井、工藤、田中、小山、仲田、平井、生駒、西村、見上、田村、鳥居、山本、石原、高橋、黒川、中村（欠席 佐藤（東京都市大）敬称略）

4. 配布資料

- ① R3SC-86-1 人事案件
- ② R3SC-86-2 第85回廃止措置分科会議事録(案)
- ③ R3SC-86-3-1 （その1）耐震安全技術レポート本文（素案）コメント対応表
R3SC-86-3-1 （その2）耐震安全技術レポート本文（素案）コメント対応表
R3SC-86-3-2 耐震安全技術レポート本文（素案）新旧比較表
R3SC-86-3-3 耐震安全技術レポート本文（素案）完本版
R3SC-86-3-4 耐震安全技術レポート付録E試算例（案）

5. 議事

(1) 一般事項

- ① 19/20名の出席により分科会成立を確認した。
- ② 人事案件 今回は無し
- ③ 次回の分科会は、10月 3日 10:00～12:00（オンライン開催）
10月24日 10:00～12:00（オンライン開催）

(2) 前回議事録確認 [R3SC-86-2]

特にコメントなし

(3) 耐震安全技術レポート本文（素案） [R3SC-86-3, -4]

- ① 担当委員からコメント対応表（その1）、新旧対比表及び試算例について説明があった。

岡本主査

今回説明のあった試算例は、コンサバティブマナーの前提に立って、失敗の確率を安全側にとっている。どのようにリスクを考えていくかという点で大きな問題提起である。運転中と同じコンサバ評価の考え方ではリスクが大きく評価され、廃止措置ができなくなるおそれがある。一方、この試算では、安全を確保するためには遮蔽が重要であることが示された。

岡本主査

リスクによる評価は将来の課題とすることでよいが、今回の試算のままでは廃止措置ができなくなる恐れがあるので、今回の試算の方法とリスク評価の関係の説明を入れた方がよい。

担当委員

損傷割合や飛散率等のパラメータによって可能なかぎり最確評価に近づける努力をしている。それが分かるような文章表現とする。

目黒副主査

Co-60が下がれば遮蔽の仕方も変わり、対策が軽減され、選択できることが多くなるのではないかと。考慮すべき項目を整理しておくことが重要である。

担当委員

何を確認しておかなければならないかを整理し、解説等を充実する。

目黒副主査

新旧対比表3.1のp4について、運転段階の要求事項を満足にするよう計画する、について“要求事項”とは何か。また、“計画する”ではなく、運転段階の要求を満足させるよう安全重要度を考慮する、という表現はどうか。

担当委員

記載を再考する。

岡本主査

海外では大型機器のまま細断をせずに廃棄することで工事のリスクを小さくしている。（岡本主査）

担当委員

大型容器に詰め込んで処理できればリスクを下げられるが、国内では受け入れられない現状がある。政策的にどうするのかを考えてもらえる機会があればいいと思う。

岡本主査

リスクを考えた対応をしないとオーバースペックとなることを、安全を考える上での注意事項という位置づけで付録等に明記すること。リスクは運転中に比べて非常に低く、遮蔽が確保できれば安全は確保できる、ということを最初に明記しておくことが必要である。。

- ② 担当委員より、コメント対応表（その2）及び新旧対比表について、11月の専門部会中間報告は本文と試算例とし、付録Eの試算例を最優先に対応することが説明された。

以上